

魅力発信！えひめ農業 NOW

令和5年 10 月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、10 月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564


<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>



目次

目次	1
10月のトピックス5選	3
令和5年度第6回就農初期農業者研修会を開催	3
農福連携でさといもの収穫体験会を実施	3
猛暑を乗り越え「ひめの凜」の収穫終了	4
松野町産花粉を授粉したキウイフルーツを収穫	4
保水剤利用による青ねぎ栽培実証試験を開始	5
えひめ農業NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
女性農業者の新たな組織活動を支援	6
通信機能付きセンサーカメラを活用したサルの追い払い活動の開始	6
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	7
さといも疫病防除を「3モデル地区」に推進～ 今年の発生被害程度は軽減 ～	7
青年農業者が中学校で出前授業を実施	7
■今治支局 地域農業育成室	8
さといも定植作業の省力化機械の活用を協議	8
大西町でかんきつの土壌管理講習を実施	8
新規就農者研修会で先輩農業者と交流	9
「ひめの凜」の高品質生産に取り組む	9
農福連携交流セミナーを開催	10
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	10
夏季レモン栽培の視察研修の実施	10
■今治支局 産地戦略推進室	11
しまなみ食材の魅力を人気料理番組で発信	11
「タオル美術館」にしまなみ地域の農産加工品を販売する特設コーナーがオープン	11
地元中学生がオリーブ収穫、搾油作業を学ぶ	12
イタリア料理店でのアンケート調査及び生産者情報の発信に向けた現地取材の実施	12
■中予地方局 地域農業育成室	13
伝統野菜の「松山長なす」を大阪でPR	13
家族経営協定締結農家が視察研修を実施	13
サルの被害対策研修会を開催	14
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	14
集落見回り活動による鳥獣害対策の支援	14
青年農業者を対象に農福連携等の研修会を開催	15
認定農業者の女性グループが視察研修会を実施	15
■中予地方局 地域農業育成室	16




久万高原農業指導班	16
福祉事業所支援員へのジョブコーチ研修会を開催	16
「久万高原秋の収穫祭」で農業者組織の活動を支援	16
上浮穴高校生を対象とした雑穀の収穫・脱穀体験会を開催	17
■中予地方局 産地戦略推進室	17
シンテッポウユリ苗冷蔵処理の効果を確認	17
■南予地方局 地域農業育成室	18
高級和菓子原料向け柿の出荷始まる	18
子供たちにツルムラサキの料理を紹介	18
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	19
大規模くり園で収穫作業の省力化を実証	19
小中学生に旬の郷土料理を伝承	19
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	20
ブロッコリーのドローン防除を実証	20
「河内晩柑」の園地再生・省力化技術を生産者に説明	20
■南予地方局 産地戦略推進室	21
梅産地の維持を見据えて・・・意向調査を実施	21
道の駅推し品目「媛かぐや」生産者を個別指導	21
■八幡浜支局 地域農業育成室	22
ドローンを活用した防除技術について学ぶ	22
農業女子が食農授業を初実施	22
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	23
地元特産品を利用した新商品の販売を支援	23
「誇れる長浜を次世代へ」協議会が本格始動	23
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	24
にんにく栽培における機械化一貫体系の確立！	24
鳥獣害削減に向けた見回り活動を実施！～地域への波及を目指して～	24
■八幡浜支局 産地戦略推進室	25
個数限定！媛小春のデニッシュ販売中	25
■農産園芸課 高度普及推進グループ	25
水稻採種ほ場のⅡ期審査	25
鳥獣害対策調査研究会で防護柵の効果的な設置について意識統一	26


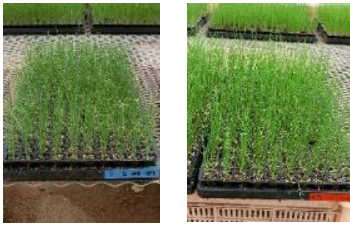
10月のトピックス5選

標 題	令和5年度第6回就農初期農業者研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年10月16日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	新規就農者、就農予定者他（15人）	連携機関	JA（えひめ未来、周桑）、新居浜市、西条市、日本政策金融公庫	
普及指導内容	<p>○新規就農者等が農業経営者として早期に自立し、地域の担い手として活躍できるよう、基礎知識や基本技術の習得を図るため「就農初期農業者研修会」を開催した。</p> <p>○当室から、野菜の病害虫防除対策について講習を行った後、研修ほ場や受講生の園地から採取した野菜の病気や害虫を検鏡する実習を行った。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは「病原菌や微小害虫を実際目にしたことで、防除の意識が変わった」「スライドで優良園地の様子を見て、改善すべきことが多くあることが分かった」との声が聞けた。</p> <p>○当研修会は、10回の開催を予定しており、今回は、11月16日（木）に「さといも栽培のススメ」「収入保険制度並びに農業簿記ソフトの入力方法について」と題した講座を予定している。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：野菜の病害虫防除対策の講習</p> <p>右：病害虫の検鏡実習</p> </div> </div>				



標 題	農福連携でさといもの収穫体験会を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年10月26日	場所	現地ほ場（今治市朝倉下）	
指導対象	さといも生産者（2人）、就労支援施設支援員、施設利用者（13人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○同月4日に開催した「農福連携交流セミナー」に参加した生産者から、農福連携に取り組みたいとの声があったことから、当該生産者のさといもほ場において、就労支援施設の支援員と施設利用者を対象に収穫体験会を開催した。</p> <p>○生産者から作業内容や注意事項を説明した後、生産者が掘り取ったさといもを施設利用者らが分割して収穫する作業を体験した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「作業もスムーズにできており、人手があるのは助かる。今後も就労支援施設と協力して作業を依頼したい」との希望もあり、今後具体的に話を進める。</p> <p>○当室では、連携を支援するとともに、本事例について生産者等に広く周知し、農福連携による労働力確保を推進していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：作業内容及び注意事項等の説明</p> <p>右：さといもの収穫作業体験</p> </div> </div>				



標 題	猛暑を乗り越え「ひめの凜」の収穫終了		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年10月24日	場所	伊予市、松前町	
指導対象	「ひめの凜」認定栽培者（75人）	連携機関	JA（えひめ中央、松山市）	
普及指導内容	<p>○伊予地区における令和5年産「ひめの凜」の栽培面積は62haで、10月4日から収穫が始まり、24日に終了した。</p> <p>○当班では、高品質安定生産を図るため、認定栽培者を対象に中干講習会や穂肥講習会等を随時開催し、栽培管理技術の徹底を図った。</p> <p>○また、生育期間中、出穂期（8月下旬）以降の高温が予想されたため、品質低下回避を目的に個別巡回や広報誌による水管理の指導徹底にも努めた。</p>			
結果と今後	<p>○今年の夏秋期は9月の平均気温が平年より2.7℃高いなど、高温で推移したものの、栽培管理の徹底が功を奏し、他の中生品種に比べ一等米の比率は高い見込み。</p> <p>○既に6年産の認定栽培者の募集が始まっており、広報誌等を活用した品種特性のPRを行い、栽培面積の拡大を目指す。</p>			
				
			<p>左：穂肥診断により適正な施肥量を指導</p> <p>右：コンバインでの収穫作業</p>	



標 題	松野町産花粉を授粉したキウイフルーツを収穫		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年10月19日	場所	伊予市、砥部町および西条市	
指導対象	キウイフルーツ農家（6戸）	連携機関	県果樹研究センター、松野町 （株）松野町農林公社	
普及指導内容	<p>○松野町が取り組んでいる「キウイフルーツ花粉ビジネス」の推進に向け、同町で昨年度収穫された花粉を用いた「授粉実証試験」の6園地（JA東予園芸、JAえひめ中央管内）を巡回し、果実の着果状況の確認と収穫調査を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○調査の結果、各園地とも着果状況や果実の肥大は良好で、輸入花粉との差は見られず、生産者からも「収量・品質ともに大きな違いは感じない」との話があった。</p> <p>○今後、南予管内の実証園地の状況も調査し、糖度やクエン酸、種子数など果実品質に問題ないことを確認した上で、松野町産花粉の販売開始に向けた関係機関との調整を図ることとしている。</p>			
				
調査果実を収穫		松野町産花粉を授粉した果実		輸入花粉を授粉した果実



標 題	保水剤利用による青ねぎ栽培実証試験を開始		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室	
年月日	令和5年10月1日～	場所	内子町		
指導対象	(株)フジファーム	連携機関			
普及指導内容	<p>○(株)フジファームを中心に青ねぎの産地化を推進する上で、かん水設備のないほ場での栽培や安定的栽培技術の確立が課題となっている。</p> <p>○当室は、関係機関との協議を重ね、かん水設備のない園地における青ねぎ栽培の確立に向け、保水剤を利用した新たな青ねぎ栽培実証試験を開始した。</p>				
結果と今後	<p>○保水剤を入れた育苗培土が水を含むと想定以上に塊ができ、苗床が盛り上がったことから、育苗培土への混合割合について、再度検討することが必要である。</p> <p>○また、育苗時にかん水回数を1/3に減少させたところ、保水剤を入れた苗では通常苗に比べて、生育が良好となったため、今後はかん水作業を省力化する栽培方法を検討する。</p>				
 <p>播種作業の様子</p>		 <p>保水剤なし 保水剤入り 保水剤を用いた試験苗</p>		<p>【保水剤】 水分を保持する資材で、砂漠化防止のための緑化等に使われている。 環境にも配慮した生分解性の資材を用いている。</p>	



えひめ農業NOW


標 題	女性農業者の新たな組織活動を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年10月25日～26日	場所	石川県金沢市	
指導対象	一次産業女子ネットワーク組織 たべとうみん（6人）	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○当室は、「たべとうみん」の活動における新たな加工品開発と既存商品（旬菜ボックス）の販路拡大を支援している。</p> <p>○当組織は水稻を栽培する農家が多いことから、今年度は米を活用した加工品開発に取り組んでいる。そこで、加工品開発の一途とするため、米を原料とした「糎」を用いた積極的な商品開発に取り組んでいる石川県金沢市の「株式会社ヤマト醤油味噌」で視察研修を行った。</p>			
結果と今後	<p>○株式会社ヤマト醤油味噌 代表取締役社長山本晴一氏から糎や発酵食品の講義を受け、米からできる「糎」の魅力を理解することができた。</p> <p>○今後は糎等の新商品の開発や、旬菜ボックスの農産物を活用したレシピ動画を作成し、SNS等での発信を予定している。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：味噌づくり体験</p> <p>右：糎に関する講義</p> </div> </div>				


標 題	通信機能付きセンサーカメラを活用したサルの追い払い活動の開始		機関名	東予地方局農業振興課 地域農業育成室
年月日	令和5年10月6日	場所	西条市丹原町寺尾集落	
指導対象	集落住民（3人）	連携 機関	農産園芸課	
普及指導 内容	<p>○サルによる農作物の被害軽減対策のため、侵入経路である高速道路の高架やアンダーパス4か所に、通信機能付きセンサーカメラを設置し、撮影画像が集落の追い払い実践者のスマートフォンのLINEに送信されるよう設定した。</p> <p>○受信した画像にサルが写っていたら、追い払い実践者が撮影か所に出動し、煙火による追い払いを実施することを申し合わせた。</p>			
結果と今後	<p>○サルの追い払いを効率よく、効果的に実施することにより、サルの侵入および被害の低減が期待される。</p> <p>○今後、追い払いの結果を検証しながら、改善点を抽出し、より効果の高い追い払いを実践する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：センサーカメラの設置作業</p> <p>右：設置したセンサーカメラ</p> </div> </div>				




標 題	さととも疫病防除を「3モデル地区」に推進～ 今年の発生被害程度は軽減 ～		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年10月20日	場所	管内さととも農家圃場	
指導対象	管内さととも生産農家	連携 機関	JA うま、管内青果業者（3社）	
普及指導 内容	<p>○平成27年に県内で初めて確認された「さととも疫病」は甚大な被害を及ぼすことから、当班はJA、青果業者と緊密に連携し、体系的な防除対策に取り組んでいる。</p> <p>○今年度は重点対策として、海風の強い3集落（藤原、長津干拓、天満上部）をモデル地区に選定し、生産者が常時確認できるよう、防除体系をコンパクトにまとめたラミネートシートを配付するなど、適期防除の指導徹底を行った。</p>			
結果と今後	<p>○市内全域での調査（10月3日現在）では、疫病の発生面積は65haで栽培面積156haに対する発生率は41.7%となり、昨年の38%から増加したが、被害程度は軽減している。</p> <p>○モデル地区では、8月の台風6号及び7号の強風・多雨に対応した防除指導を徹底した結果、特に藤原及び長津干拓集落で薬剤散布通路を設置したほ場は、まん延警戒防除を5回実施できたこともあって被害程度は少なく、10月下旬まで葉の残存も多く高品質・高収量を確保したことから、有効な防除対策として普及啓発を進めて行く。</p>			
				
			<p>左：防除体系をコンパクトにまとめたラミネートシート（まん延警戒期5回防除で発病軽減）</p> <p>右：薬剤散布通路の確保（赤囲み）</p>	



標 題	青年農業者が中学校で出前授業を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年10月25日	場所	四国中央市立川之江南中学校	
指導対象	四国中央青年農業者連絡協議会 (2人)	連携 機関	四国中央市農業振興課	
普及指導 内容	<p>○職業選択について考え始める中学2年生（148人）を対象に、農業に興味をもってもらうことを目的に、協議会が初めて企画した取組みの「食と農業」をテーマにした出前授業の実施を支援した。</p> <p>○当日は、当班が四国中央市の農業の概要を説明し、会長と副会長が活動内容や農家ライフの紹介を行った後、新宮茶と市販のペットボトル茶の飲み比べを行い、生徒と楽しく交流を図りながら農業の魅力を伝えた。</p>			
結果と今後	<p>○農業経営に関する生の声を伝えることで「どのくらい儲かるのか」「繁忙期は休みが取れない日もあるが大丈夫か」など活発な質疑応答につなげることができ、多くの中学生に食と農業に関心を持ってもらう良い契機となった。</p> <p>○出前授業は2回実施し、次回（11月下旬予定）はペットボトルでのリーフレタス栽培を実地指導することとしている。</p>			
				
			<p>左：協議会活動や農業経営の実態を紹介</p> <p>右：新宮茶と市販の緑茶を飲み比べ</p>	



標 題	さといも定植作業の省力化機械の活用を協議		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年10月5日	場所	(株)ファーム咲創事務所	
指導対象	(株)ファーム咲創	連携機関	JAおちいまばり	
普及指導内容	<p>○(株)ファーム咲創は、さといもの定植作業の省力化を図るために、今年から新たに畦立・定植・施肥・薬剤処理・マルチングを同時に行うエイブルプランターを導入した。</p> <p>○同機械の導入により、従来の半自動定植機を活用した作業に比べ時間が半分と大幅に省力化が図れたが、一部ほ場で萌芽不良があったため、当室はJAと連携して原因を調査し次期作への対策を協議した。</p>			
結果と今後	<p>○萌芽不良は、マルチに穴が開いていないことから、定植時期の3～4月に降水量が多い時期に排水不良のほ場で蒸れることが原因と考えられるため、生産者へ溝切等の排水対策の徹底を周知することとした。</p> <p>○規模拡大と安定生産を進めるうえでエイブルプランターは省力化に欠かせない機械であることから、当室では排水性の良いほ場を中心に積極的な活用をすすめる。</p>			
				<p>左：エイブルプランターで定植 右：萌芽不良の原因を検討</p>

標 題	大西町でかんきつの土壌管理講習を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年10月6日	場所	JAおちいまばり大西支店	
指導対象	大西果樹同志会女性部（5人）	連携機関	JAおちいまばり	
普及指導内容	<p>○秋肥施用前の土壌状態を把握するため、樹園地（かんきつ、キウイ）の土壌（32点）を収集し、農林水産研究所において成分分析を実施し、分析結果に基づく対処法を説明した。</p> <p>○分析結果から、ほぼ全園地のpH、ECが低くなっているため、2～3月に苦土石灰と完熟堆肥の施用に加え、中耕、標準量の施肥を実施することを申し合わせた。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「以前は中耕していたが、最近はやったことがない。土を取る時かなり固かった」「冬の石灰、堆肥、中耕からやってみよう」と、土壌改良の必要性を再確認する声が聞かれた。</p> <p>○肥料の高騰を受け、降雨による流亡を防ぐため土壌改良による地力増進を呼び掛け、来季の安定生産に向け適正な施肥を今後も指導する予定。</p>			
		<p>土壌分析に基づいた土壌管理を指導</p>		

標 題	新規就農者研修会で先輩農業者と交流		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年10月2日	場所	イオンモール今治新都市 イオンホール	
指導対象	新規就農者、就農予定者 等	連携機関	今治市、上島町、JA（おちいま、今治立花）、農業共済	
普及指導内容	<p>○就農形態が多岐にわたり技術の習得や知識の不足、仲間づくりが課題となる中、地域を支える農業者の育成を目的に研修会を開催し、新規就農者や就農予定者、県農業指導士等55人が参加した。</p> <p>○農業指導士と先輩青年農業者から、就農時の苦労話や地域内での仲間づくりの大切さを伝えたほか、関係機関からは資金や収入保険などの新規就農者を支える様々な制度の情報提供を行った。</p>			
結果と今後	<p>○新規就農者からは、栽培品目の選定の考え方や経営に関わる情報の収集方法についての質問があり、農業指導士からは「高単価が狙える作物があるとよい」などのアドバイスがあった。</p> <p>○同じ地域内でも交流する機会が少ない新規就農者同士の情報交換の場として、今後も継続して開催していく。</p>			
		<p>左：先輩農業者による経営事例紹介</p> <p>右：若手農業者の育成をテーマに意見交換</p>		




標 題	「ひめの凩」の高品質生産に取り組む		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年10月12日	場所	今治市朝倉	
指導対象	農事組合法人 かみあさライスセンター	連携機関	JA おちいまばり、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○今治市では約60haの「ひめの凩」が栽培されているが、このうち農事組合法人かみあさライスセンターは約5haを栽培しており、今回収穫作業を報道機関に公開した。</p> <p>○当室では、良食味・高品質米（プレミアム）の安定生産のため、猛暑対策として水管理の徹底や葉色測定による肥培管理を指導しており、今治市の「ひめの凩」1等米比率は71.5%（10月末現在）で生育及び収量は順調であった。</p>			
結果と今後	<p>○かみあさライスセンターでは、「上朝倉米」として直接販売も行っており、認知度向上に向けて米・食味分析コンクールに出品し入賞を目指すとともに、「ひめの凩」の魅力を伝えるSNS等を活用した販売促進活動の取組みを支援する。</p> <p>○また、生産者を増やすため収穫した「ひめの凩」を構成員に試食してもらい、次年度の栽培を呼び掛け、作付拡大を目指す。</p>			
				
コンバインで収穫		ひめの凩の品質を確認		




標 題	農福連携交流セミナーを開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年10月4日	場所	イマバリ寺ス（今治市延喜）	
指導対象	就労支援施設支援員、農業者、関係機関等（11人）	連携機関	JA おちいまばり、今治市	
普及指導内容	<p>○農福連携の認知度向上と推進を目的に、農福連携に取り組んでいる就労支援施設「イマバリ寺ス」において、農福連携交流セミナーを開催した。</p> <p>○当室からは、農福連携のメリットや作業環境の整備、作業の細分化などの農福連携にスムーズに取り組むための留意事項等について説明を行った。</p> <p>○「イマバリ寺ス」からは、取組みの紹介や障がい者を雇用するうえで注意すべきこと等の説明があり、実際の作業を見学した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、作業時間の配分や夏場の作業環境の整備、刃物の取り扱い時の注意点についての質問が多く出されるなど、農福連携への関心の高さがうかがえた。</p> <p>○また、セミナーに参加した農業者から、「今後、農福連携に取り組みたい」との声が上がり、就労支援施設支援員と利用者を対象に農作業体験を実施することとなった。</p>			
				<p>左：農福連携についての説明</p> <p>右：作業視察（花木の調整作業）</p>




標 題	夏季レモン栽培の視察研修の実施		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和5年10月4日	場所	高知県香美市	
指導対象	上島町岩城ハウスレモン生産者（8人）	連携機関	高知県中央東農業振興センター、JA 高知県	
普及指導内容	<p>○当班では、しまなみ地域での夏季レモンの増産に向けて、施設栽培の面積拡大や夏季収穫に適応した生産体系の普及に取り組んでいる。</p> <p>○今回、夏季生産技術のノウハウを学ぶため、施設栽培が盛んな高知県香美市の温室レモン部会への視察研修を企画・実施した。</p>			
結果と今後	<p>○当地域とは栽培形態の違い（香美市は加温）はあるが、冬季の保温や病害虫防除などの生産技術のほか夏季レモンの流通動向に関する貴重な情報が得られた。</p> <p>○国産レモンの人気で年間を通じて安定的な供給が求められており、レモンの夏季生産の取組強化に向けて意欲が高まった。</p>			
				<p>左：部会長が栽培概要を説明</p> <p>右：温室栽培現地で生産者と意見交換</p>




標 題	しまなみ食材の魅力を人気料理番組で発信		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年10月22日	場所	さいさいきて屋 キッチンスタジオ	
指導対象	農産加工事業者グループ 「しまなみみんなのディッシュ」	連携 機関	JA おちいまばり	
普及指導 内容	<p>○局予算事業「しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業」の一環として、しまなみ地域の食材をPRする料理番組の収録を行った。</p> <p>○本番組は、人気TV料理番組「Tai 飯」の特別編「しまなみ食材発見編」として制作されており、今回は新メニュー「山の恵みパスタ」と「海の恵みアクアパッツァ」が調理された。</p>			
結果と今後	<p>○料理には、しまなみ地域で生産されたオリーブ、イタリア野菜、椎茸、ジビエ、ワインなどの多くの食材が利用され、食材を提供した事業者グループを代表して2人が番組に出演し、地域の食材をアピールした。</p> <p>○番組は、Tai 飯の公式YouTube や11月に同事業で開設するSNS ポータルサイトでも配信することとしており、引き続き同サイトでの産地や食材情報の提供等を通してしまなみ地域に根付きつつある農業や食材の魅力を発信する。</p>			
			<p>左：番組撮影風景 中：完成した「山の恵みパスタ」 右：「Tai 飯」の収録</p>	

標 題	「タオル美術館」にしまなみ地域の農産加工品を販売する特設コーナーがオープン		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年10月17日	場所	タオル美術館	
指導対象	農産加工事業者グループ 「しまなみみんなのディッシュ」	連携 機関	タオル美術館	
普及指導 内容	<p>○10月17日に県内外の観光客を年間約40万人集客している「タオル美術館」に、地元の農産加工品を販売、PRする特設コーナーを設置した。</p> <p>○同コーナーは、同館2階の銘品販売フロア内（幅4.5m×5段）に設置したもので、局予算事業「しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業」の一環として結成した、農産加工事業者のグループ「しまなみみんなのディッシュ」の会員の商品であるワインやオリーブオイル、有機栽培の農産加工品等を販売するとともに、商品や事業者のアピールポイントを取りまとめたPOP等を作成し展示している。</p>			
結果と今後	<p>○同事業では、販売している商品や事業者の情報を発信するポータルサイトを11月に開設する予定としている。</p> <p>○引き続き首都圏や松山市でのフェア開催等を通して、商品の認知度と販売力の向上を目指す。</p>			
				
設置した特設コーナー			コーナー陳列の商品	

標 題	地元中学生がオリーブ収穫、搾油作業を学ぶ		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年10月23日	場所	オリーブ栽培園地	
指導対象	大島中学校1年生(21人)	連携機関	ポパイズクラブ、 今治市立大島中学校	
普及指導内容	<p>○県内初のオリーブ産地の認知度向上と将来の担い手育成を図るため、オリーブの収穫体験会を開催した。</p> <p>○体験会では、生徒がオリーブの収穫を体験するとともに、選果作業や搾油作業を見学。当室及び生産者グループ「ポパイズクラブ」は、産地化に向けた取組やオリーブ栽培のポイントを説明した。</p>			
結果と今後	<p>○オリーブオイルとオリーブの塩漬けを試食した中学生からは、「地元産を初めて食べた」「美味しい」という声が聞かれた。</p> <p>○来春には、同グループから同校生にオリーブ苗がプレゼントされる予定で、引き続き地元学生を対象とした学習会の開催を通して、産地の知名度向上等を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>開会式</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>収穫方法の説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>調整作業の見学</p> </div> </div>				

標 題	イタリア料理店でのアンケート調査及び生産者情報の発信に向けた現地取材の実施		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年10月16日、18日、20日	場所	さいさいきて屋 今治市内イタリア料理店2店 等	
指導対象	イタリア野菜生産者(4人)	連携機関	JAおちいまばり、(株)フードスタイル	
普及指導内容	<p>○栽培実証中のイタリア野菜類について、さいさいきて屋と今後の出荷販売方法を検討するとともに、有力な販売先となる地元イタリアンシェフの要望を聞き取るため、今治市内の人気イタリア料理店「アルペーロ」、「Kunel Kitchen」を訪問し、出荷規格の確認や使いたい品目、時期等についてアンケート調査を行った。</p> <p>○商品や生産者の情報を、局予算事業「しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業」で開設するポータルサイト等に掲載するため、委託事業者と生産者を取材した。</p>			
結果と今後	<p>○協議の結果、当面の販売先として、さいさいきて屋での店頭販売に加え、利用が見込める料理店等への配達を決定。今後は、料理店等への営業活動を本格化させるとともに、店側の要望等を調査し生産者の栽培にフィードバックさせる。</p> <p>○今回の取材を通して聞き取った商品や生産者の情報は、11月に開設するポータルサイトやSNSの記事として取りまとめ、広く実需要者等に発信する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="display: flex; gap: 10px;">    </div> <div style="text-align: right;"> <p>左：地元飲食店での要望調査 中：JAとの販売戦略の協議 右：ポータルサイト掲載に向けた取材</p> </div> </div>				

標 題	伝統野菜の「松山長なす」を大阪で PR		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年10月18～19日	場所	大阪府、京都府	
指導対象	えひめ食の大使館認定店（4店舗）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、松山市、県大阪事務所	
普及指導内容	<p>○伝統野菜である「松山長なす」を PR するため、事前にサンプルを送付した大阪・京都の「えひめ食の大使」認定店において、食材としての評価の聞き取り調査を実施。</p> <p>○そのうち2店舗では、地方局予算「なす産地強化対策事業」の一環として、店舗が主催する「松山長なすフェア」を開催。</p> <p>○フェアは10月14日から1週間実施し、期間中の来店客を対象に、松山長なすを使った料理6メニュー（ピリ辛香味漬、トマトソース焼き等）を提供した。</p>			
結果と今後	<p>○飲食店担当者が松山長なすを使った感想は、「とても調理しやすく、どんな料理にも使えて、すごく柔らかいのに煮崩れしない」「果皮を焼いて粉末にしたり、果肉を潰してソースとしても利用できる」と高評価であった。</p> <p>○また、来店客からは「このような長いなすは初めて見た」「想像以上に美味しい」と感想を聞くことができた。</p> <p>○今後も関係機関と連携のうえ、県内外で「松山長なす」を PR し、認知度の向上と需要の拡大を目指す。</p>			
  			<p>左：店舗担当者から聞き取り</p> <p>中：「松山長なす」を使った料理</p> <p>右：提供した「松山長なす」</p>	

標 題	家族経営協定締結農家が視察研修を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年10月16日	場所	今治市大三島、伯方島	
指導対象	家族経営協定締結農業者ネットワーク推進協議会員（11人）	連携機関	松山市、東温市	
普及指導内容	<p>○松山市及び東温市の家族経営協定締結農家で構成する「松山地区家族経営協定締結農業者ネットワーク推進協議会」の視察研修を4年ぶりに実施した。</p> <p>○今回は、今治市大三島で「しまなみイノシシ活用隊」による鳥獣害対策やジビエ利用の活動を学ぶとともに、かんきつ先進農家の園地や移住農業者によるかんきつ加工品ショップを視察し、機械化及び省力化に対応した樹園地づくりやレモンの加工品販売に関する取組みについて研修した。</p>			
結果と今後	<p>○鳥獣害対策は、参加者全員の共通する課題であることから、「しまなみイノシシ活用隊」の渡邊代表に対して多くの質問が寄せられた。</p> <p>○近年は家族経営協定を締結し、夫婦で新規就農するケースも多く、家族経営協定の締結推進と併せ、同会への入会を呼び掛け、協議会活動の活性化を図る。</p> <p>○なお、管内では今年度、新たに5戸の農家が家族経営協定を締結しており、締結農家数が280戸となっている。</p>			
  			<p>渡邊氏からジビエの話聞く</p> <p>機械化に対応した園地視察</p> <p>加工品販売の取組みについて研修</p>	

標 題	サルの被害対策研修会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年10月3日	場所	松山市北条コミュニティセンター	
指導対象	北条猟友会会員、耕種農家（30人）	連携機関	松山市、北条猟友会	
普及指導内容	<p>○松山市北条地区では、サルによる農作物被害が深刻な状況となっていることから、地域からの要請に応じ対策研修会を開催した。</p> <p>○当室の鳥獣管理専門員から、ニホンザルの習性と東予地域での事例に基づく捕獲方法について紹介するとともに、「中型獣用簡易箱わな」の製作方法を動画と模型を活用して説明した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、簡易箱わなの強度や部品の入手方法、さらには、撒き餌の種類等について活発な質問があり、関心の高さがうかがえた。</p> <p>○なお、10月は「鳥獣害防止対策強調月間」であることから、管内の鳥獣被害低減に向け、地元農業者やJA等との集落点検（由良地区）を実施するなど、対策の徹底を呼び掛けた。</p>			




左：動画でサルの習性を解説



右：模型を用いた箱わな製作の説明



標 題	集落見回り活動による鳥獣害対策の支援		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年10月13日	場所	伊予市佐礼谷地区	
指導対象	集落代表者及び猟友会員（2人）	連携機関	伊予市	
普及指導内容	<p>○「鳥獣害防止対策強調月間」の取組みとして、鳥獣害防止に向けた意識啓発を図るため、鳥獣管理専門員と連携し集落見回りを実施した。</p> <p>○見回りでは、防護柵の設置状況やセンサーカメラの撮影データを確認した。</p>			
結果と今後	<p>○防護柵は適正に設置されていたが、野菜のつるが防護柵の地際を一部被覆していたため、格子が常に目視できるようつるの除去を指導した。</p> <p>○センサーカメラにより箱わな周辺にイノシシが出現していることが確認できたため、箱わなの餌付け方法を検討し、餌は米ぬかを中心に、クズ米、粟、みかん等を使用することとした。</p> <p>○今後も、定期的な見回り等を行い、鳥獣害に強い集落づくりを支援する。</p>			





箱わなの餌付け方法を協議

標 題	青年農業者を対象に農福連携等の研修会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年10月26日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	伊予地区青年農業者連絡協議会会員 (8人)、管内就農予定者(2人)	連携 機関	県農業会議	
普及指導 内容	○労働力確保における農福連携の活用推進のため、管内の事例紹介や、かんきつ農家等での雇用の実態とポイントを説明した。 ○また、愛媛県農業会議から講師を招き、農地の権利設定や移転・転用に係る許可や基準等の基礎知識について研修した。			
結果と今後	○「農福連携の作業依頼はいつ頃、どこにすればよいか」等の質問のほか、参加者間での情報交換も活発に行われた。 ○引き続き青年農業者や新規就農者に対し、研修会の開催等による知識・技術の向上を図るとともに、労働力確保対策の手法として、農福連携の理解促進と取組の拡大に努める。			
		農福連携事例やポイントについて説明		

標 題	認定農業者の女性グループが視察研修会を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年10月23日	場所	えひめ農業未来カレッジ、県果樹研究センター	
指導対象	あいネットワーク会員(9人)	連携 機関	えひめ農業未来カレッジ、県果樹研究センター	
普及指導 内容	○伊予地区の女性認定農業者で構成する「あいネットワーク」が、会員のスキルアップを目的とした視察研修会を開催するにあたり、当班では円滑な実施に向けての調整・準備などを支援した。 ○当日は、えひめ農業未来カレッジで草刈り機のセルフメンテナンスを中心とした農業機械の研修を行い、果樹研究センターで新規有望品種である「紅プリンセス」の研究ほ場を視察した。			
結果と今後	○参加者からは、「普段使用している草刈り機の整備や、安全利用について改めて学ぶことができた」と好評であった。 ○また、「紅プリンセス」については、「露地栽培で注意する点は」「収穫時期はいつ頃か」等、熱心な質問があがった。 ○今後も品目を超えた生産者間の交流と技術の習得について支援し、女性の活躍を促進する。			
				
		<p>左：草刈り機の整備について研修</p> <p>右：「紅プリンセス」の栽培について質問する参加者</p>		

標 題	福祉事業所支援員へのジョブコーチ研修会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年10月3日	場所	久万高原農業指導班実証ほ場	
指導対象	久万高原町・松山市の福祉事業所2 施設（支援員3人、利用者2人）	連携 機関	JA松山市、久万高原町	
普及指導 内容	<ul style="list-style-type: none"> ○農福連携による農家労働力確保のため、福祉事業所支援員に対しピーマンの収穫作業についてジョブコーチ研修会を開催した。 ○独自に作成した「作業マニュアル」を活用し、ピーマンのヘタの除去方法など、収穫時における技術のポイントを指導した。 ○また、当班の実証ほ場見学も実施し、トマト等の栽培管理に関する指導を行うとともに、雑穀・薬用植物等の情報提供も行った。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○支援員の作業技術の向上と農業に対する理解が深まったことから、今後の農福連携事例の増加が見込まれる。 ○参加した支援員から、農業機械の操作や農薬の使用方法等についても学びたいとの要望があり、今後、対応を検討する。 			
 		<p>左：収穫のポイントを施設支援員にアドバイス</p> <p>右：施設利用者にも理解しやすいよう作成した収穫作業マニュアル</p>		

標 題	「久万高原秋の収穫祭」で農業者組織の活動を支援		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年10月15日	場所	久万農業公園アグリピア	
指導対象	久万町青年農業者協議会員（35人） 久万町生活研究協議会員（53人）	連携 機関	久万高原町、JA松山市 他	
普及指導 内容	<ul style="list-style-type: none"> ○久万高原地域の活性化を図るため、「久万高原秋の収穫祭」に参加した農業者組織の活動を支援し、町内外から来場する消費者との交流を図った。 ○青年農業者協議会は餅つきの実演を行い、久万の特産品である「よもぎ粉」や会員が栽培した「黒米」、地域食材である「こきび」を練り込んだ餅を即売した。 ○生活研究協議会のブースでは、地域食材の生産振興を図るため、雑穀（たかきび）を代替肉として使用したクーマカレー（200食）の試食を行い雑穀の認知度向上に努めた。 ○また、当班で実施している局予算事業やトマト、ピーマン、シンテツポウユリ等の栽培実証成果をパネル展示し活動をPRした。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○青年農業者が販売した「こきびもち」は特に好評で、町産食材のPRができた。 ○クーマカレーのアンケート調査（119人）では「肉を使っていないのに驚いた、雑穀の可能性を感じた」「プチプチとした食感が最高」などの意見が寄せられ、80%以上で高評価を得られた。 ○引き続き、農業者組織の活動を通して地域への貢献活動を支援するとともに、地域に適した農産物の産地振興や地域食材のPR等を通して、地域農業の活性化に努める。 			
 		<p>左：餅つきで消費者と交流</p> <p>右：クーマカレーの試食</p>		

標 題	上浮穴高校生を対象とした雑穀の収穫・脱穀体験会を開催		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年10月6日	場所	久万高原農業指導班実証ほ場	
指導対象	上浮穴高校森林環境科1、2年生 (6人)	連携機関	久万高原町	
普及指導内容	<p>○地方局予算「久万高原地域食材伝承事業」の活動の中で、若い世代の雑穀に対する関心の喚起や、商品開発での若い感性の活用を目的に、上浮穴高校生を対象とした収穫・脱穀体験会を開催した。</p> <p>○会では、町内での生産状況や雑穀の推進方策を講義した後、「地とうきび」の収穫と「たかきび」の脱穀を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○今後、搗精した雑穀を上浮穴高校に提供し、新たな加工品の商品化に取り組む。</p> <p>○雑穀を利用した開発メニュー（クーマカレー等）を、町内の飲食店や道の駅で販売できるように調整を進める。</p>			





【搗精】
玄米を磨き、削り込む精米加工のこと。



左：高校生が「地とうきび」を収穫
右：「たかきび」の脱穀


標 題	シンテッポウユリ苗冷蔵処理の効果を確認		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年10月	場所	東温市川上地区	
指導対象	シンテッポウユリ生産者（3人）	連携機関	JA 松山市	
普及指導内容	<p>○シンテッポウユリの彼岸出荷に適する4品種の比較実証及び、定植直後の高温遭遇による生育抑制（ロゼット）回避のための苗冷蔵処理による実証に取り組んだ。</p> <p>○8月中旬から9月下旬まで、定期的に花茎の伸長（抽台）や収穫状況を調査した。</p>			
結果と今後	<p>○苗冷蔵処理により、抽台や収穫が早まり9月末時点の収穫率が90%以上（対照区の収穫率は60~70%）となり効果が確認できた。収穫のピークは、彼岸前高需要期の9月上中旬より早い8月中下旬であった。</p> <p>○生産者からは「これまで10月以降も収穫が続き、防除等の手間がかかる上に収穫率が低く困っていたが、次年度も苗冷蔵処理を行ってみたい」との声が聞かれた。</p> <p>○今後、実証報告会と次年度の実証計画（播種日等）について検討を行う。</p>			






左：右4列が冷蔵処理区で収穫を開始（8月中旬）
右：手前4列が冷蔵処理区で収穫を終了（9月下旬）


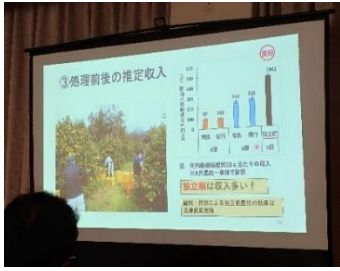
標 題	高級和菓子原料向け柿の出荷始まる		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年10月6日	場所	宇和島市柿原、三間	
指導対象	高級和菓子原料向け柿生産者	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○宇和島市柿原、三間を中心に13戸が栽培に取り組んでいる加工用柿の収穫が10月6日に始まった。しかし、今年は秋口の気温が高く着色が遅れているため、当室は色付きを十分確認して収穫・出荷するよう指導するとともに、腐敗果の防止対策について説明した。</p> <p>○また、近年、生産者が高齢化する中で、産地全体で新たな担い手の掘り起こしに取り組むことを申し合わせるとともに、先進地の長野県における産地情報の提供を行い、今後の生産に向けた取組みを協議した。</p>			
結果と今後	○収穫は11月上旬頃まで行われる見通しであり、当室では引き続き適期収穫や厳選出荷を指導し、高品質な柿の安定供給につなげる。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：着色を確認しながら収穫 右：着色した柿</p> </div> </div>				

標 題	子供たちにツルムラサキの料理を紹介		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年10月20日	場所	宇和島市立成妙小学校	
指導対象	宇和島市生活研究協議会三間支部 成妙小学校（5年生、6年生）	連携機関	宇和島市	
普及指導内容	<p>○地元食材への理解を深め、ふるさとの味を伝承する食文化普及講座を開催し、特産のツルムラサキを使った料理を児童に紹介した。</p> <p>○県内生産のほとんどが三間であることや野菜としての特長を当室が説明し、協議会員がおひたしやソテーなどの調理方法を実践指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加した児童からは、「ツルムラサキは初めて食べたけど、おいしかった。家でも作って食べてみたい」「もっと地元の料理について知りたい」といった感想が聞かれるなど、「食」による伝承の重要性を再認識した。</p> <p>○12月には津島地区でも同講座を計画しており、引き続き、地元食材を使った郷土料理の伝承を通じて地域特産品や農業への理解を深める活動を行っていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：説明を真剣に聞く児童 右：調理にチャレンジ</p> </div> </div>				

標 題	大規模くり園で収穫作業の省力化を実証		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年10月18日	場所	鬼北町泉	
指導対象	(株) アグリサポート鬼北	連携機関		
普及指導内容	<p>○くり生産者の高齢化が進む中、傾斜地で収穫かごを背負いながら園地を移動する作業の負担軽減を目的に、鬼北町泉の大規模くり園で収穫ネットを用いた省力化の実証を行った。</p> <p>○ネットの設置は、落下した毬が作業道まで転がって一か所に集まるように行い、斜面の途中でかごに溜まった毬を転がすことで移動の負担を軽減されるよう配置した。</p> <p>○収穫ネット設置区と未設置区で同じ本数の樹を収穫し（50本、約16a）、要した時間をそれぞれ計測した。</p>			
結果と今後	<p>○調査の結果、作業時間は収穫ネット設置区では18分/10aとなり、未設置区に比べ4割程度縮減されることが確認できた。</p> <p>○今後、関係機関と連携して講習会等で実証試験の結果を周知し、導入を支援する。</p>			
		<p>左：収穫ネットの設置作業 右：かごにたまった毬を斜面の途中から転がすことが可能</p>		

標 題	小中学生に旬の郷土料理を伝承		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年10月4日、23日	場所	鬼北町立日吉中学校・三島小学校	
指導対象	鬼北町生活研究協議会員、児童・生徒、保護者	連携機関	鬼北町	
普及指導内容	<p>○郷土料理に触れてもらうことで、地域の食文化の普及・継承につなげるため、鬼北町内の小中学生を対象に料理講座を開催した。</p> <p>○鬼北町特産のきじ肉、ゆず、栗、しいたけなど、旬の食材を使用して、食材の扱い方や調理方法を指導し、きじの炊き込みご飯やゆずゼリーなどを完成させた。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「習ったことを家でも実践したい」「鬼北産の食材のおいしさを改めて知ることができた」などの感想が聞かれ、郷土料理や食材の伝承に寄与した。</p> <p>○引き続き、次世代を担う子供たちや保護者に、調理体験を通して伝統的な食文化への理解を促進していく。</p>			
		<p>左：包丁の使い方を伝授 右：完成した料理</p>		

標 題	ブロッコリーのドローン防除を実証		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年10月21日	場所	愛南町御荘長月	
指導対象	ブロッコリー生産者	連携機関	愛南町、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○愛南町特産のブロッコリーの新規栽培者の確保や、大規模生産者の労力削減を目的に、ドローン防除による作業の省力化や有効性の確認を進めている。</p> <p>○今回、10月1日に定植した秋作ブロッコリー（品種：おはよう）の初回防除にあたり、殺菌剤と殺虫剤をそれぞれ一剤ずつ、ドローンによる散布実証を行った。</p>			
結果と今後	<p>○所要時間は、強風時のホバリング待機時間を含め、約4分/10a。散布5日後のハスモンヨトウ発生株率は、対照区（無防除）30.8%に対し、ドローン防除区は0.0%であり、防除効果が確認された。</p> <p>○生産者からは、「薬剤の付着状況が心配だったが、概ね問題ない」との評価があった。</p> <p>○今後も、適期のタイミングで年末までドローン防除を続け、秋作における薬効の確認や問題点の抽出を行うとともに、生産者を対象に実演会を開催する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：ドローンに薬液注入 右：防除スタート</p> </div> </div>				

標 題	「河内晩柑」の園地再生・省力化技術を生産者に説明		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年10月23日	場所	JA えひめ南南宇和営農センター	
指導対象	JA えひめ南南宇和果樹部会 19人	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○当班はこれまで「河内晩柑」の縮間伐による省力化技術や、カットバックによる老木再生、主幹への傷入れによる自根対策（樹勢の安定）について、有効性を確認してきた。</p> <p>○今回、同部会の研修会において、現段階までの成果を報告した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、縮間伐の実証に用いた「河内晩柑」の樹齢や、カットバックした樹の果実品質の変化等について質問が多く出され、技術や経営改善に向けた参加者の熱意が感じられた。</p> <p>○今後、収穫作業効率や収益性の確認を継続して行うとともに、新規就農者や青年農業者等を中心に実証技術の普及を推進する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：果樹部会研修会で 成果を報告 右：収益性の比較</p> </div> </div>				

標 題	梅産地の維持を見据えて・・・意向調査を実施		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年10月6日、20日	場所	松野町	
指導対象	梅生産者	連携機関	松野町梅振興会	
普及指導内容	<p>○生産者の約53%が70歳代以上である現状を踏まえ、産地の将来像を検討するため、松野町梅振興会と協力して個別訪問調査を行っている。</p> <p>○調査は同会員19名全員を対象に、管理状況の把握と園地承継に関する意向を確認するもので、加工用梅以外の青梅生産への取組状況についても聞き取りを行った。</p>			
結果と今後	<p>○高齢会員は、防除等から収穫に至るまでの大半の作業を松野町農林公社に委託している状況だが、現状、園地の譲渡や承継など将来の具体的な方針を決めかねている。</p> <p>○また、収益性の高い青梅出荷量の増加に向け、受入体制整備に加え、青梅収穫に適した樹形管理や園地改善が必要であることを再確認した。</p> <p>○全員の意向調査後、若手生産者への園地承継や同公社の体制づくりなど、今後の梅産地の維持方策について協議を行うこととしている。</p>			
 <p>各生産者を個別に訪問して意向調査を実施</p>				

標 題	道の駅推し品目「媛かぐや」生産者を個別指導		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年10月20日	場所	宇和島市三間町	
指導対象	道の駅みま出荷者	連携機関	道の駅みま	
普及指導内容	<p>○道の駅みまの12月の推し品目「媛かぐや」の生育状況の確認と出荷前管理指導のため個別巡回指導を行った。</p> <p>○栽培期間中は少雨傾向にあったことから、「みまファーマーズ通信」を同駅に掲示し、かん水の必要性について周知を図ったこともあり、概ね生育は順調。虫害による商品価値の損失を防止するため、観察すべきポイントや防除方法を含めて指導した。</p>			
結果と今後	<p>○11月中旬に出荷前講習会、12月下旬には同駅での販促活動を予定しており、今後、同品目を含めた多様な品目提案や栽培指導を通じて、出荷意欲の向上を図っていく。</p>			



みまファーマーズ通信

●今後の管理について

ハスモンヨトウに注意

水やりは週1を11月まで

11月中旬：出荷前説明会を開催します。



不安に思うところや御意見がありましたら、






ほ場を巡回しながら生産者に説明




管理ポイントを道の駅へ掲示


標 題	ドローンを活用した防除技術について学ぶ		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年10月11日	場所	八幡浜支局	
指導対象	かんきつ生産者ほか（40名）	連携機関	県果樹研究センター	
普及指導内容	<p>○当室ほか関係機関で組織する西宇和スマート農業推進協議会では、スマート農業技術の普及促進に向け、「未来につなぐ西宇和スマート農業フォーラム2023」を開催した。</p> <p>○当室は、ドローン防除を実践している生産者とともに、ドローンを活用した防除の事例紹介をした後、飛行に適した園地への改造の重要性などを説明した。</p> <p>○また、会場内にアシストスーツの着用体験コーナーを設け、参加者に合ったアシストスーツの紹介や着用体験などにも取り組んだ。</p>			
結果と今後	<p>○会の中では、スマート農業に関心を示す生産者が多くいたが、生産現場では先入観によりドローンの防除効果を疑問視する生産者も多いとの意見も聞かれた。</p> <p>○今後は、当室で設けている実証ほどのドローン防除による効果を取りまとめ、その結果を用いた指導により、さらなるスマート農業技術の普及促進につなげていく。</p>			
				<p>左：「ドローン防除実践者に聞く」と題して生産者が取組みを発表</p> <p>右：アシストスーツの着用体験</p>



標 題	農業女子が食農授業を初実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年10月23日	場所	伊方町立伊方小学校	
指導対象	∞農 Harvest（八西地区一次産業女子）会員（6人）	連携機関	伊方町	
普及指導内容	<p>○女性農業者の目線で子供たちに農業の良さを伝え、かんきつに興味を持ってもらおうと、伊方小学校3年生18人の児童を対象に、一次産業女子会員が講師となって、食農授業を実施した。</p> <p>○当室では、授業の円滑な実施にあたっての調整や児童が農業を体感できる内容の協議、立案などを支援した。</p>			
結果と今後	<p>○児童からは、「みかんの種類がたくさんあってびっくりした」「みかんの仕事がよくわかった」といった声が聞かれた。</p> <p>○「みかん農家になりたいか」の質問に授業前はあまり手が挙がらなかったが、授業後には半数以上の児童が挙手するなど、関心が高まったことが伺え、食農授業の重要性を痛感した。</p> <p>○今後も学童保育などで実施する計画としており、1人でも多くの児童が農業に関心を持ってもらえるように、授業内容などを支援していく。</p>			
				<p>左：みかんに関心を寄せる児童たち</p> <p>右：会員が収穫時に使う道具を紹介</p>


標 題	地元特産品を利用した新商品の販売を支援		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年10月9日	場所	たいき産直市 愛たい菜	
指導対象	大洲市青年農業者協議会員（6人）	連携機関	大洲市、仙味エキス(株)	
普及指導内容	<p>○当班では、加工品販売を通じた地元特産品の認知度向上に取り組む大洲市青年農業者連絡協議会を支援している。</p> <p>○今回は、第13回大洲産業フェスタでの試験販売を通じて、新たに開発した「さといも（親芋）フライ」と、レモンとしょうがなどと用いた「クラフトコーラ」の2種類の需要動向調査を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○どちらの商品も想定以上に販売し、イベント終了までに完売するなど、大盛況となった。</p> <p>○来場者と積極的な交流が図られ、協議会の認知度向上を図ることができた。</p> <p>○今後、本格販売に向けた検討や計画的な出店、効果的なPR活動の企画・運営を支援していく。</p>			
 <p>青年農業者が新商品を販売</p>				



標 題	「誇れる長浜を次世代へ」協議会が本格始動		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年10月25日	場所	JA愛媛たいき長浜支所	
指導対象	長浜未来協議会員（12人）	連携機関	JA愛媛たいき、大洲市	
普及指導内容	<p>○当班が約1年前から設立に向けて指導していた新たな組織「長浜未来協議会」が設立総会を開催し、本格的な始動に向け、今後の活動や予算について協議をし、承認された。</p> <p>○当班は事務局として協議会の自律的な活動の企画運営、関係機関連携等を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○従来から個人で長浜産農産物の販売促進、荒廃農地対策、情報発信を柱に取り組んできた活動が本協議会の設立を契機に更なる充実した活動に展開することが期待される。</p> <p>○サポーター（準会員）の登録を可能としているが、既にロゴマークの作成に協力するなど、地元ゆかりの企業や個人の登録希望が多くある。今後、当班では、それらサポーターとの連携強化と協議会運営を支援し、組織・会員の資質向上を図る。</p>			
  <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>Nagahama MIRAI'Z</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>長浜未来協議会</p> </div> </div> <p>活動内容について協議 西村副会長（左）と津田会長（右） 協議会のロゴマーク</p>				

標 題	にんにく栽培における機械化一貫体系の確立！		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年10月13日	場所	西予市野村町大野ヶ原	
指導対象	大野ヶ原にんにく組合員（7人）	連携機関	(株)中四国クボタ、西予市	
普及指導内容	<p>○大野ヶ原地域ではにんにくの産地化に向け、機械化一貫体系の確立による労力負担の軽減を図るため、省力化機械の整備を行った。</p> <p>○当班では、整備に係る補助事業の活用に向け、事業内容の説明や書類作成などの支援を行うとともに、整備した種子割り機・選別機、マルチャーを使用し、手作業で行う場合と機械を使用する場合での作業時間比較による労働力削減効果を実証した。</p>			
結果と今後	<p>○効果実証では、種子割り・選別作業は、手作業と比較し63%、マルチ張りについては、90%と大きく作業時間が削減されることを確認できた。</p> <p>○今後は、収穫時期に合わせ、掘取機の効果実証を行い、作業体系ごとの機械使用を栽培マニュアルに反映し生産者へ周知するとともに、機械化一貫体系の確立による面積拡大への取組みを支援していく。</p>			
			<p>左：種子割り機による効果実証 右：マルチャーによる効果実証</p>	

標 題	鳥獣害削減に向けた見回り活動を実施！～地域への波及を目指して～		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年10月26日	場所	西予市三瓶町蔵貫	
指導対象	イノシシM・U・A組合（2人）、(株)百姓百品村	連携機関	農林水産研究所、西予市	
普及指導内容	<p>○鳥獣害削減に向け、大型捕獲檻と遠隔監視型装置による見回りなど捕獲作業の省力化技術を地域に波及するため、実証試験で設置している捕獲檻の調査を実施した。</p> <p>○捕獲檻の稼働状況や檻の状態を確認し、侵入経路の視覚的共有を行ったうえで、今後仕掛ける餌の種類等、効果的な捕獲に向け協議した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「捕獲檻の効果を実感できた。遠隔監視型装置があれば見回り回数が減り、目で見て檻を作動することで、捕獲率の上昇にもつながる。導入を検討したい」との声が聞かれた。</p> <p>○今後は、遠隔監視型装置による見回り回数の削減、捕獲数量の推移等、効果を検証し、同装置を対策マニュアルに反映するなどにより地域への波及を支援していく。</p>			
			<p>左：遠隔監視型装置 （ハンティングマスター） 右：捕獲檻の動作確認</p>	

標 題	個数限定！媛小春のデニッシュ販売中		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和5年10月24日～	場所	八幡浜支局	
指導対象		連携機関	道の駅 八幡浜みなと、アゴラマルシェパン工房	
普及指導内容	<p>○県オリジナルかんきつ「媛小春」は生産量が少ないため、消費者の目にとまる機会が少ない。</p> <p>○認知度向上を図るために、青果を直接買わない世代へのPR方法として加工品開発に取り組むこととしており、八幡浜市で多くの集客がある道の駅「八幡浜みなと」内の「アゴラマルシェパン工房」での商品販売を見据え協議した。</p>			
結果と今後	<p>○昨年度加工した「媛小春」のシラップ漬けやマーマレードを活かした商品とするため、果肉を乗せたデニッシュを試験販売したところ、同工房から「手ごたえがありそう」との連絡があり、個数限定ではあるが本格販売に着手することとなった。</p> <p>○販売期間中には当室が作成したPOPを掲示するなど、消費者へ広く周知を図ることとしている。</p>			
 		<p>フルーツデニッシュ（媛小春）</p>		

標 題	水稻採種ほ場のⅡ期審査		機関名	高度普及推進グループ																																																																																																																																																																																																																																						
年月日	令和5年10月3日、11日	場所	採種ほ場 167 筆																																																																																																																																																																																																																																							
指導対象	採種ほ生産者（29人）	連携機関	JA（えひめ中央、松山市）、農水研																																																																																																																																																																																																																																							
普及指導内容	<p>○県内の採種ほ場は、松前町と伊予市において6品種が取り組まれており、今回はヒノヒカリ、ひめの凜、媛育71号、しずく媛、松山三井の5品種の審査を行った。</p> <p>○審査は生産者立会のもと、効率的な採種ほ審査に取り組んでいる。</p> <p>○また、審査精度の向上を目指し、Z-GISを利用したほ場マップに、雑草など管理状況の調査結果を反映させ一覧及び個票化したものを紐づけし、関係機関等へ周知できるシステム構築などに取り組んでいる。</p> <p>○システムは、刈取適期の検討において品種ごとの管理状況を一元管理し、取りまとめに利用するなど有効に活用することとしている。</p>																																																																																																																																																																																																																																									
結果と今後	<p>○審査結果は、担当JAを通じて生産者へ通知し、刈り取り等の指導を実施。</p> <p>○種子センターにて、調整作業の指導をおこない優良種子生産・確保につなげる。</p>																																																																																																																																																																																																																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">品種別</th> <th colspan="10">10月14日</th> <th colspan="3">10月20日</th> </tr> <tr> <th>品種名</th> <th>刈取適期</th> <th>10月14日</th> <th>10月15日</th> <th>10月16日</th> <th>10月17日</th> <th>10月18日</th> <th>10月19日</th> <th>10月20日</th> <th>10月21日</th> <th>10月22日</th> <th>10月23日</th> <th>10月24日</th> <th>10月25日</th> <th>10月26日</th> <th>10月27日</th> <th>10月28日</th> <th>10月29日</th> <th>10月30日</th> <th>10月31日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>21号</td> <td>全刈取</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>しずく</td> <td>全刈取</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>松山三井</td> <td>全刈取</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		品種別		10月14日										10月20日			品種名	刈取適期	10月14日	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日	10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日	10月31日	21号	全刈取	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	しずく	全刈取	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	松山三井	全刈取	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	合計																				<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">品種別</th> <th colspan="10">10月14日</th> <th colspan="3">10月20日</th> </tr> <tr> <th>品種名</th> <th>刈取適期</th> <th>10月14日</th> <th>10月15日</th> <th>10月16日</th> <th>10月17日</th> <th>10月18日</th> <th>10月19日</th> <th>10月20日</th> <th>10月21日</th> <th>10月22日</th> <th>10月23日</th> <th>10月24日</th> <th>10月25日</th> <th>10月26日</th> <th>10月27日</th> <th>10月28日</th> <th>10月29日</th> <th>10月30日</th> <th>10月31日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>21号</td> <td>全刈取</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>しずく</td> <td>全刈取</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>松山三井</td> <td>全刈取</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>10月24日以降の見直し(今後、伊予農業指導所が確認)</p>			品種別		10月14日										10月20日			品種名	刈取適期	10月14日	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日	10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日	10月31日	21号	全刈取																			しずく	全刈取																			松山三井	全刈取																			合計																			
品種別		10月14日										10月20日																																																																																																																																																																																																																														
品種名	刈取適期	10月14日	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日	10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日	10月31日																																																																																																																																																																																																																							
21号	全刈取	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0																																																																																																																																																																																																																							
しずく	全刈取	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0																																																																																																																																																																																																																							
松山三井	全刈取	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0																																																																																																																																																																																																																							
合計																																																																																																																																																																																																																																										
品種別		10月14日										10月20日																																																																																																																																																																																																																														
品種名	刈取適期	10月14日	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日	10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日	10月31日																																																																																																																																																																																																																							
21号	全刈取																																																																																																																																																																																																																																									
しずく	全刈取																																																																																																																																																																																																																																									
松山三井	全刈取																																																																																																																																																																																																																																									
合計																																																																																																																																																																																																																																										
<p>刈取適期診断表</p>		 <p>S-GIS 利用マッピング</p>																																																																																																																																																																																																																																								

標 題	鳥獣害対策調査研究会で防護柵の効果的な設置について意識統一		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年10月20日	場所	県農林水産研究所、松山市由良	
指導対象	県普及職員等（12人）	連携機関	(株)野生鳥獣対策連携センター 農産園芸課 鳥獣害対策係	
普及指導内容	<p>○県は、野生鳥獣による農作物の被害軽減を図るため、捕獲による「攻め」、防護柵設置などの「守り」、集落ぐるみで対策を行う「地域体制づくり」の3本柱の確実な実施を進めているが、依然として被害は深刻な状況が続いている。</p> <p>○そこで、各地域で鳥獣害対策を支援している普及職員等を対象に、防護柵の設置や補強対策等に関する知識・技術習得に向けた研修会を開催した。</p> <p>○当日は、(株)野生鳥獣対策連携センターの阿部専務取締役を講師に招き、各普及拠点における鳥獣害対策の取組状況について情報共有した後、松山市由良のかんきつほ場にて防護柵の補強対策やくくりわなの設置に関する実地研修を行った。</p>			
結果と今後	<p>○情報共有の結果、既設の防護柵の設置方法が不適切なために、効果を十分に発揮していない事例も散見され、改めて有効性を確認する必要性が示唆された。</p> <p>○実地研修の参加者は「設置環境や対象獣種に応じて、効果的に防護柵を設置することが重要だと感じた」「現場指導に役立てたい」と今後の対策指導に意欲的だった。</p> <p>○引き続き、研修会等を通じて普及職員等の鳥獣害対策の技術向上に取り組み、野生鳥獣による農作物被害の軽減を図っていく。</p>			
				<p>左：実地実習 右：補強後の防護柵</p>

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543